

## ブルーベリーバルデンシア葉枯病の発生について

### 1 発生の経緯

平成22年10月、宮城県内のブルーベリー「ジャージー」において、葉に輪紋状の葉枯れ症状が確認され、宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部において同定を行ったところ、*Valdensia heterodoxa*によるブルーベリーバルデンシア葉枯病と確認された。本病は平成15年に岩手県の「ジャージー」で、平成20年には長野県の「アーリーブルー」、「ブルーレイ」、「ジャージー」、「スパルタン」などで発生が確認されている。本県での発生は初確認である。

### 2 発生状況

- (1)発生作物 ブルーベリー
- (2)発生品種 ジャージー
- (3)病害名 ブルーベリーバルデンシア葉枯病  
病原菌 *Valdensia heterodoxa*

### 3 病徴と被害

- (1) 本病は葉に発生し、はじめ褐色の斑点が生じ、輪紋状の大型病斑を形成する(図1)。
- (2) 地際部の新梢葉で発生した後、株全体に拡大する。
- (3) 病徴が進展すると、早期に落葉する(図2)。
- (4) 病斑の中心部にはしばしば小黒点(葉に感染した分生子)が認められる(図3)。

### 4 病原菌の性質と伝染

- (1) 糸状菌の一種で、生育適温は15～20℃とされている。分生子は付属器を開いた状態では、直径約0.7mmの星形である(図4)。
- (2) 本病原菌は多犯性で、海外ではラズベリー、コケモモ等の林床植物や高山植物での発生が報告されている。



図1 葉の輪紋状の大型病斑



図2 発病葉の葉枯れ症状

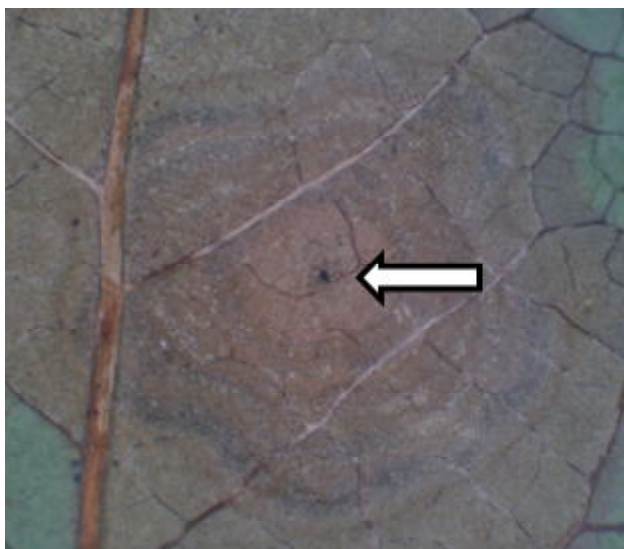


図3 病斑中心部の小黒点(矢印先)



図4 分生子の形状

## 5 防除対策

- (1) 本病は地際部付近の新梢葉から発生するので、不要な新梢を早めに剪除する。
- (2) 発病葉や被害残渣は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 薬剤防除を行う(表1)。

表1 ブルーベリーバルデンシア葉枯病の登録薬剤(平成23年1月19日現在)

薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法
ベンレート水和剤 (ベノミル水和剤)	収穫7日前まで	1回以内	3000倍	散布

農薬の使用に当たっては最新の登録情報をご確認ください。